

IAU京都総会の新聞発行報告

「こちら The Sidereal Times 編集室 !!」



国立京都国際会館 (KICH) で開催されていた IAU 京都総会が 8 月 30 日午前を持って、無事終了しました。そこでここでは、先月の天文月報 10 月号に掲載された IAU 京都総会の途中経過報告の続きとして、LOC (実行委員会) の一員として IAU 新聞 (The Sidereal Times) 編集に関わった立場から新聞発行に関する簡単な報告を、多少の裏話も含めて、致します。

1. 編集室紹介

LOC の新聞編集委員は、寿岳潤、比田井昌英、そして、Seth Shostak の 3 名。なぜ外国人編集者が入っているのでしょうか？ それは、この新聞 The Sidereal Times (以下 ST と略す) は IAU の公用語 (英語と仏語) で発行される必要があり、日本人だけではほぼ全てが英語である記事の編集は無理であること (やはり英語国民には勝てません) と、Shostak が 3 年前のオランダでの IAU で、同じ新聞の編集者をやっていたことがあるからです。実際、彼は全ての記事を編集し、さらに写真も撮っていました。特に彼の人物写真の撮り方は見事でした。え？ 日本人編集者 2 人は何をしていたかって？ あの一、ちゃんと仕事してましたが……。例えば、記事のタイプや校正、簡単な日本に関する記事作り、毎朝 8 時に来て今日の新聞を配布する (重かった)、LOC とのやり取り、新聞を印刷する京都機関紙印刷センターとのやり取り、カメラ片手に写真取材、そして、一番大事な紙面編集の方針を考えること、等をこなしていました。

今回の編集では、計算機 (マック) による DTP (Desk Top Publishing) を行うようにし、これに関連

するハイテク機材として、フィルムスキャナー、スキャナー、デジタルカメラ、レーザープリンター、MO ディスクドライブ、モデムなどを用意しました。一方、フィルム現像を緊急に会場 (KICH) で行う事態に対応するために、昔からの伝統的なロウテック (?) 機材の現像タンク、トレイ、温度計、薬品等一式を準備しました。筆者は、これは万が一にも使うことはなかろうと思っていましたが、その万が一を約 20 年ぶりに使うことになり、総会開会式の大事なフィルムを、目張りして暗室にした湯沸かし室で冷や汗を流しながら現像し、現像タンクから出てきたフィルムに陰画がくっきりと見えたときは、ドッと疲れが出ました。通常のフィルム現像は市内の業者に頼みました。写真機材は Shostak と筆者がカメラを 2 台ずつ持ち込み、これらを主にして補助的にデジタルカメラを使って取材をしました。筆者はさらに、インタビュー用にテープレコーダーまで用意しましたが、結局使いませんでした。のんびりインタビューを受けるほど、皆さん暇ではなかったようです。

このような機材とは別に、我々日本人編集者は各々段ボール 1 箱に相当する、英和、和英、英々の各辞典、理科年表、天文用語集、日本文化・習俗や生活事情などに関する本、漢字に関する辞典 (これは筆者が持っていったもので、「字通」白川静著、書道辞典、など)、アメリカ天文学会名簿、などの参考書籍を持ち込みました。これらは立派に役立ち、持っていった甲斐がありました。

計算機上での紙面作成は京都機関紙印刷センターの松山さんが、締め切り時間との熾烈な戦いを



写真1 編集室の様子。編集委員の Shostak (左)と筆者(右)。



写真2 記事をタイプしている寿岳編集委員

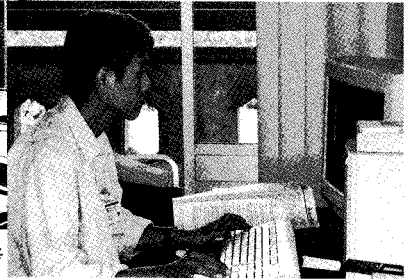


写真3 わき目もふらずに紙面制作をする松山さん。

しながら沉着冷静に、手品を見るような見事な技術でこなしてくれました。日曜日以外、毎日朝9時半から夜の9時頃までの激務に耐えていただき、お陰様でSTを大好評(自画自賛?)のうちに11回発行できました。最後の2、3日は、松山さんの目の回りは隈だらけのようでした。体重もかなり減ったことでしょう。

編集室にはもう一人人材が居ました。LOCアシスタントとして全国から駆け付けてくれた百数十名の学生諸君の一人、若野君です。彼は毎日、フィルムを市内の写真店に持っていき、現像してもらって持ち帰る役目をこなしました。ところが、彼は Shostak に写真のモデルに抜擢されたのです。日本のお辞儀の仕方や、冗談のコラム記事用に地下鉄車内の床で、ロウ細工の海老天などを食べるモデルをしていました。LOCアシスタントの中では最も有名人になったのではないのでしょうか。

編集室は KICH の5階、建物の北西角の部屋でしたが、北側には会場の一つであるイベントホールが真下に見え、北東の比叡山をはじめ、緑濃い穏やかな山々を望むことができる大変眺めの良い部屋でした。記事を持って来た人もしばしば景色に見とれていました。中には、わざわざベランダ状になっている外に出て、写真を撮っていく人もいました。筆者も、くたびれると、暫しポーっと外を見ていました。有名な(?)京都の日中の蒸し暑さ

は、空調の効いた部屋にいたおかげで残念ながらほとんど体験できませんでした。

2. 発行情報

ST発行に関する統計的なことを簡単に報告します。
 (1) 発行回数：11回。(2) 発行日：1997年8月18～23日、25～29日。(3) 各回発行部数：1800部。(4) 各号ページ数：4ページ=1, 2, 4～6号。6ページ=3, 7～10号。8ページ=11号。(5) 紙面タイトル部：3色刷り(The Side-real Timesの文字=黒, IAU ロゴマーク=青, 京都総会ロゴマーク=赤と黒, XXIIIrd General Assembly - Kyoto 1997の文字=赤, 背景の星空=青の濃淡づけ)。(6) 紙面記事部：黒一色刷り(写真も含む)。

3. STの一日

STが作られる経過をある一日で見てください。朝8時頃、筆者が部屋を開ける。今日の新聞を配布する仕事を終えて、寿岳と部屋に戻り、昨日の編集で全面に書き込まれた白板を消して、さあ、今日も頑張ろう。9時～9時半頃、Shostakと松山さんが来て、本格的に記事の編集作業を開始する。我々も記事の内容をラップトップパソコンで入力しテキストファイルにする。これをフロッピーディスクに保存し、Shostakのマックに入力する。彼がこれを編集する。これで一つの記事が出来上がり

ます。Shostak は次々と、記事を自分でタイプしたり、フロッピーディスクで持ち込まれた記事を編集していく。編集済みの記事は松山さんのマックに転送されます。そのうち、ポツリポツリと記事を書かせてもらいたい人がやってきます。大多数は紙に書かれた記事を持って来ますが、中にはフロッピーディスクで持ってきてくれる人もいます。これは大助かり。さらに中には、その場で、ラップトップパソコンを使ってタイプする人も出てきます。ワープロとしては一太郎を使っているのですが、外国人がタイプする時は筆者の出番です。編集室を訪れる人が3、4人かち合うと、もう大変。対応しているうちに、あっと言う間に時間が過ぎ、また普段広く感じる部屋なのに、まるで混んだ電車に乗ったように感じます。

午後2時頃迄に写真フィルムが届くので、どの写真を載せるかを考えながら紙面制作に入ります。写真については、フィルムスキャナーによってマック上に取り込まれた画像を松山さんが手品師のように見栄え良くしたり、切ったり貼ったり、時には改変、合成してトリック写真を作ったりします。この作業は Shostak と一緒に行ないます。時たま、我々日本人2人が口をはさむ位です。この写真のレイアウト作業は文章の場合よりずっと面倒なものらしく、松山さんは大変だったようです。

4時頃になると、機関紙印刷センターの田嶋さんが現れます。大体いつもお菓子を差し入れてくれます。(生やつはしとか。)そして、自分の会社や、他の会社と連絡を取り、今日の新聞の出来上がりは何時になるかと、気にしています。かたや、松山さんが懸命にマックを操り、紙面制作をしています。出来上がった紙面はプリントされて、我々が校正をします。この作業で、かなり間違いが発見されます。主にタイプミスです。間違いを修正して、そのページが完成します。こうして出来上がった新聞の紙面は、MOに保存されます。このMOとプリントされた紙面が、KICHの玄関で待機しているバイクの宅急便(「ロケット便」)でし



写真4 会場メインホール1階のST配布場所にて。

たからきつと届くのも早かったでしょう。)に渡されて、今日の編集が終わります。気が付けば、時刻は7時半頃で、契約上のMOを渡すメ切時間の6時をとうに過ぎていたのでした。後は印刷会社が夜から夜中にMOから製版して、印刷し、それを、KICHに朝8時頃に届けるわけです。

4. 話題

1. 地下鉄が地上を走る……

ST第3号(8月20日)に、「京都交通局が、夏期運行とトンネル内の風通しのために、明日から地下鉄を地上で運行するでしょう、と知らせてきた。」という囲み記事が載りました。これは Shostak が書いたんですが、我々はもちろんこれは冗談の記事であると思っていました。ところが、そのうち、LOCの受付や案内担当から電話で、「この記事は本当なのかという質問が参加者から出ているが、どういうことなの?」と尋ねられてしまいました。その後も、かなりの人からこの冗談記事について問い合わせや意見をいただき、編集者が予期しなかった大きな波紋が広がりました。地下を走るから地下鉄というのでしょうか、しかし、東京の丸の内線の一部は地上を走り、名古屋市の東山線の一部は地上はもちろん、高架上也走っているなどの例外を知っている人には面白くない冗談だったかも知れません。また、外国から京都に着い

たばかりの参加者にとっては、会場に来る交通機関のことだけに、冗談だろうと思っても不安になったかも知れません。その後、編集者は波紋の大きさを考慮し、ST 第5号（8月22日）で、「この前の記事は冗談であり、地下鉄は元通り地下で運行されるでしょう。」という困み記事を載せました。一件落着。

2. ST 第4号、品切れとなる……

ST 第4号は、21日の朝、配布直後から引く手あまたとなり、予定していた部数がその日のうちに全く無くなってしまいました。次の日に、予備として編集室に残しておいたわずかな部数を、これまでのSTのバックナンバーと一緒に、LOCの案内所に置きました。ところが、これも早々と無くなり、参加者配布用は完全に品切れとなりました。それに比べて他のSTはかなり残っていました。この第4号の大好評の理由は、一面トップに20日の総会開会式においでになった天皇皇后両陛下の写真が載っているからでした。天皇皇后両陛下の御訪問に関連した取材は、ST編集部も「IAU」の腕章をShostakが着けて、一般の新聞社と同様に行ないました。この時にデジタルカメラが威力を発揮しました。撮影してすぐ編集室の計算機に画像を取り込み、ST第4号に載せることができました。取材については各新聞社の間で細かい取り決めがあるみたいでしたが、我々は素人新聞社ですし、また、主催者側であることから、かなり優遇してもらった感じでした。

総会開会式では、新聞、報道関係者以外の参加者はカメラ、ビデオの持ち込みを禁止されていました。そんなこともあってか、後日、編集室にドイツ人が編集部が撮影した両陛下の写真を貰えないか、と言ってきました。しかし、デジタルカメラということ、フィルムはあるが陰画紙には全く焼きつけていなかったことから、この人の御希望には残念ながら沿えませんでした。

3. 天文関係……

そろそろ紙面の関係で、私の話も終りにしなく



写真5 品切れとなったST第4号

てはなりません、STが取り上げた天文学の記事の中で話題らしきものとしては、ハッブルディープフィールドに発見された赤方偏位 $z = 4.9$ の銀河、W. Freedmanのハッブル定数 ($H = 73 \text{ km/s/Mpc}$) の決定、ISO (Infrared Space Observatory) による赤外線観測の多くの結果、HALCAによる高分解能画像の観測結果、などでしょう。

STが取り上げられなかった話題としては、ヘルボップ彗星の結果があります。これについては特別セッションが急提開催されました。今回のIAUは、ホットな話題が少し不足していたかな、という感じが残りました。

5. おわりに

今回のST発行に関して、我々編集部は実によくの方々からご協力を頂きました。とりわけ、記事を提供して頂いた参加者の方々と、社長命令で編集と制作を全面的に支えて頂いた京都機関紙印刷センター、特に松山さん、田嶋さんに感謝致します。

比田井 昌英 (東海大学文明研究所)

IAU 京都総会へのご寄付に感謝します (No. 3)

第 23 回国際天文学連合総会募金委員会

下記の企業、団体、個人より貴重なご寄付をいただきました。謹んで御礼申し上げます。

(今回のリストには、本年 5 月 19 日以降にご寄付の申込みをいただきました企業と団体、及び入金を確認できました個人だけを掲載させていただいております。なお、これ以前のご寄付につきましては、本誌 5 月号、7 月号にお名前を掲載いたしております。)

企業、団体 (申し込み順)

(株)ニュートンプレス、(社)日本民営鉄道協会、総合電子(株)、(社)東京銀行協会、(株)トブコン、(社)信託協会、岡谷電機産業(株)、紀州マンナンフーズ(株)、富士重工業(株)、(株)小笠原計器製作所、(株)東食、キッセイ薬品工業(株)、富士ゼロックス(株)、稲畑産業(株)、興和(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、(株)トーマン、豊田通商(株)、TDK(株)、(有)天文書房、三菱商事(株)、伊藤忠商事(株)、(社)日本ガス協会、(株)共栄、(株)イメージサイエンス、金商又一(株)、蝶理(株)、野崎産業(株)、(社)不動産協会、川鉄商事(株)、住金物産(株)、住友商事(株)、長瀬産業(株)、三井物産(株)、(社)全国地方銀行協会、丸紅(株)、日立アプリケーションシステムズ(株)、兼松(株)、(株)日立製作所、ソニー(株)、東通産業(株)、協和発酵(株)、富士電機(株)、ダイニック(株)、アズマン(株)、松本電気鉄道(株)、日製産業(株)、オムロン(株)、Kluwer Academic Publishers、(株)ニュートリノ、ペーリンガー・マンハイム(株)、大倉商事(株)、大鵬薬品(株)、日本化薬(株)、日商岩井(株)、中外製薬(株)、竹菱電機(株)、東光通商(株)、(社)日本自動車工業会、(株)エイ・イー・エス、住友製薬(株)、松下電器産業(株)、東レ(株)、島田理化学工業(株)、ニチメン(株)、岩谷産業(株)、ノバルティスファーマ(株)、(社)日本測量協会、コンカレント日本(株)、(社)日本建設業団体連合会、(社)日本損害保険協会、(株)テクニーク、日産自動車(株)、川崎重工業(株)、(株)鈴木商館、沖電気工業(株)、日本証券業協会
……以上 77 件 小計 14,618,000 円 [通算 151 件 合計 30,793,000 円]

個人 (入金確認順、敬称略)

小倉勝男、石沢俊亮、家 正則、鍛冶信太郎、島内みどり、藤田良雄、渡部潤一、杉本大一郎、林 左絵子、和中・桐蔭同窓会、大阪・和中・桐蔭同窓会、立松健一、福江 純、田鍋浩義、楨野文命、山口喜助、西岡公彦、小平 唄、坂下志郎、藤本正樹、瀬川嘉洋、柴崎徳明、堂本義雄、森本正子、渥美登良男、平山智啓、杵鞭充千男、小杉俊一、徳丸宗利、箕輪敏行、坪井昌人、櫻井幸夫、岡崎清市、金子英滋、田中培生、中健一、渡辺勲二郎、関矢英士、桑原昭二、高橋 清、早瀬正郎、竹内良夫、竹田洋一、大下信雄、清水康平、井上 猛、大橋正健、國分利幸、山崎 昭、吉田重臣、田中光明、山下博久、中嶋隆三、萩原哲夫、今井裕、奥田治之、高橋辰彦、市川伸一、松岡 勝、定金晃三、市川 隆、柿沼隆清、倉谷 寛、中川好成、森久保 茂、吉田淳三、柴田晋平、入口ふさ子、河端淳一、宮澤秀次、河端ハツエ、多胡昭彦、氏家慧一、森岡雄二、山本兼士、梅村雅之、柴崎清登、川口市郎、小山勝二、長瀬文昭、水野孝雄、斎藤泰道、中本泰史、三谷哲康、松浦 考、平間利昌、五味一明、大崎 徹、赤羽徳英、河合雅司、高野宏一郎、西村昌能、斎藤正男、木下 宙、杉谷光司、中川朋子、福井尚生、仲野 誠、蓮茨霊運、青木 茂、野々村眞一、増田 智、中村 強、金沢輝雄、藤川繁久、久保良雄、奥村幸子、平田龍幸、嶋作一大、常深 博、田村眞一、小嶋康史、斎藤 衛、春山 仁、伊藤 孝士、山内茂雄、川崎康寛、浅草克己、半田利文、黒河宏企、石津太一郎、中村泰久、泉浦秀行、藤本剛二、宮崎英昭、高岡 史、田辺健慈、横澤一男、坂野 壽、穂積俊輔、阪本成一、田坂一郎、田原博人、遠藤 仁、柴田一成、観山正見、楠瀬正昭、武田英徳、一本 潔、安藤裕康、他匿名 2 件

……以上 142 件 小計 5,584,456 円 [通算 276 件 合計 14,666,456 円]